

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 13 日

Table with columns for 事務事業名, 予算編成事業, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法根拠, etc.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当が行う業務の内容・やり方・手順

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段, ②対象, ③意図, and various indicators like 活動指標, 対象指標, 成果指標.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts for 29, 30, and 01 fiscal years across different categories like 国庫支出金, 事業費計(A), etc.

Table comparing 30年度事業費実績 (千円) and 01年度事業費予算 (千円) for categories like 09 旅費, 11 需用費, 19 負担金補助及び交付金.

(4) 当該年度の実施内容

Table with columns for 01年度, 02年度, and 03年度の事業内容. Includes a note about recording content and a list of main activities.

事務事業名	予算編成事業	事務事業No.	60503000061	所属課	財政課
-------	--------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	昭和22年の地方自治法施行以来、全国の地方公共団体で毎年予算編成を行っている。 連結財務4表や財政健全化比率の公表により、議会、住民の市予算内容に対する関心は高まっている。
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	事務事業自体に対しての議会、住民等からの意見要望はなし。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	大規模プロジェクトが控えているため、しっかりとした財政計画を作成する必要がある。
改革改善を行う	

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 事務事業評価、総合計画の優先度評価及び事務事業に基づいて、予算編成を行っている。 予算編成では、行政効果と経済効果を十分考慮しているため、健全財政の維持につながっている。
妥当性	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市の行財政運営の根幹となる事業である。
有効性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 経常収支比率は、財政の弾力化を示すもので低いほど臨時的な事業に予算の配分ができるため行財政改革に取り組み改善に努める。 起債の償還財源としての基金の取り崩しを極力抑制し、起債発行額もできる限り抑制していく。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 地方自治法211条に基づくものであり、財政運営の根幹であるので、廃止・休止できない。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 統廃合はできない。
	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 人件費以外の事務費としては、予算書及び書籍等必要最小限の計上で、削減の余地がない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である この事業に対する特定の受益者はいない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括（振り返り、反省点） 当初予算編成にかかる事務事業、さらに補正予算編成にかかる事務事業は、年間のほぼ2/3を占める多大な事務事業であるため、事前準備等の作業が重要である。また、地方交付税の合併算定替終了など課題も多く、将来を見据えた予算編成が必要となってくる。																							
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																							
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持	（複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																							
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 今後、大規模なプロジェクトが続くことから、枠配分予算により経常経費の抑制を図るとともに、きちんとした財政計画を作成し、それに基づき予算編成を実施していく。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下			×																				
(6) 事務事業優先度評価結果																								
成果優先度評価結果	④																							
コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） B：継続（改革改善を行う） C：終了、廃止、休止 D：2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>